

国語 第6学年 文の組み立て 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す。学習の記録は、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文である。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。

単元の目標

文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（〔知識及び技能〕(1)カ）

文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全2時間（知・技2）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教師作成の修飾先が曖昧な文を読み、係り先に矢印を付ける。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教師作成の修飾先が曖昧な文を読み、係り先に矢印を付ける。 語順や句読点を変えた案を比べ、自分の文で伝えたい関係を確かめる。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）

本時の案

本時の目標：文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。〔知識及び技能〕(1)カ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この言葉は、文の中のどの言葉を詳しくしていますか」 【めあて】文中の語句の係り方と語順を確かめ、意図が伝わる文に直す。 〈予想される児童の反応〉 ・主語のまとまりはどこまでか確かめたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この言葉は、文の中のどの言葉を詳しくしていますか」 教師作成の修飾先が曖昧な文を読み、係り先に矢印を付ける。語順や句読点を変えた案を比べ、自分の文で伝えたい関係を確認する。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・主語のまとまりはどこまでか確かめたい。 ・長い文は区切ると動作の関係が分かる。	教師作成の短い文から主語と述語を結び、修飾する語を少しずつ加えて比べる。文が長いこと自体を誤りとせず、対応が明確かで判断する。 想定する難しさ：文中の最初の名詞だけを主語と考え、文全体の組み立てを見ない。 評価では、文の中での語句の係り方や語順について理解しているかを、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 文の中での語句の係り方や語順について理解している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・長い文は区切ると動作の関係が分かる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この言葉は、文の中のどの言葉を詳しくしていますか」。中央は、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまづきやすい所と手当て

文中の最初の名詞だけを主語と考え、文全体の組み立てを見ない。この難しさには、教師作成の短い文から主語と述語を結び、修飾する語を少しずつ加えて比べる。文が長いこと自体を誤りとせず、対応が明確かで判断する。評価では、文の中での語句の係り方や語順について理解しているかを、主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

主語・述語と修飾の関係を示した文、修正後の自作文を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」52行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

